



自然共生社会に向けて

沖縄の生きものは、みんなのたから！

カテゴリー		説明	種数
絶滅		すでに絶滅したと考えられる種	19
野生絶滅		野生では絶滅したが、人が飼育していることで見ることができる種	3
絶滅 危惧	絶滅危惧Ⅰ類	野生での絶滅のおそれがある種	160
	絶滅危惧Ⅱ類	今のままだと将来、野生での絶滅のおそれが出てくる種	566
準絶滅危惧		今は絶滅のおそれは少ないが、住む場所やえさをとる場所が少なくなった場合、絶滅のおそれが出てくる種	414

※「絶滅危惧ⅠA、ⅠB類」の区分及び「情報不足」「絶滅のおそれのある地域個体群」のカテゴリーは省略しています。
 ※くわしくは沖縄県自然保護課HP (<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=70>) をご覧ください。

イリオモテヤマネコ (絶滅危惧Ⅰ類)

ほ乳類



環境省那覇自然環境事務所

いりおもてしま
西表島だけに住む、野生のネコです。林内から川ぞいに住み、昆虫などの小動物を食べます。2007年の調査で100頭前後が住んでいると報告されています。

ジュゴン (絶滅危惧Ⅰ類)

ほ乳類



鳥羽水族館

昔は県内の多くの島の海に住んでいましたが、最近の調査では、沖縄本島の周りで数頭だけ確認されています。浅い海に生えている海草を食べています。

ダイトウオオコウモリ (絶滅危惧Ⅰ類)

ほ乳類



自然保護課

きただいでとうしま みなみだいでとうしま
北大東島、南大東島にだけ住んでいます。日中は高い木の枝で休み、夕暮れ時からえさを採るために活動します。えさは木の実や花、葉などを食べます。

ノグチゲラ (絶滅危惧Ⅰ類)

鳥類



自然保護課

やんばるの森だけに住むキツツキの仲間で、樹齢40年以上の古い木に巣を作って住んでいます。枯れた木をつついたり、土を掘って、昆虫などを食べます。

沖縄県では、開発や外来生物の侵入、交通事故などによって、減ってきた野生生物のことを多くの人に知ってもらうため、「レッドデータおきなわ」を作成しています。
 その中から、代表的な絶滅危惧種を紹介します。

カンムリワシ(絶滅危惧Ⅰ類)

鳥類



自然保護課

石垣島、西表島、小浜島に住んでいます。見晴らしの良い木に止まり、カエルなどのえさがあらわれるのを待ち続けるまちぶせ型の狩りをします。

クロツラヘラサギ(絶滅危惧Ⅰ類)

鳥類



自然保護課

朝鮮半島～日本～ベトナム間を渡る渡り鳥で、沖縄には冬鳥として10数羽がおとずれます。那覇市の漫湖干潟、豊見城市の三角池などの水辺で見ることができます。

ヤンバルクイナ(絶滅危惧Ⅰ類)

鳥類



嵩原建二

やんばるの森だけに住む、飛べないクイナ類です。日中は地上を歩いていますが、夜間はヘビなどの攻撃をさけるために木の上をねぐらとしています。

キクザトサワヘビ(絶滅危惧Ⅰ類)

は虫類



環境省那覇自然環境事務所

久米島だけに住む、水の中で生活するサワヘビの仲間です。森林を流れるきれいな川の石のすきまにひそみ、オタマジャクシやエビなどを食べているとされています。

ヤンバルテナガコガネ(絶滅危惧Ⅰ類)

昆虫類



環境省那覇自然環境事務所

やんばるの森だけに住む、日本で一番大きな甲虫で、大きなものでは体の長さが60mmをこえます。幼虫は大きな木の樹洞(木に空いた穴)に住んでいます。

イシカワガエル(絶滅危惧Ⅰ類)

両生類



当山昌直

沖縄本島だけに住み、森林を流れるきれいな川の周辺で、ヤスデやカニなどを食べています。夜行性で日中は岩のわれ目や土手の穴などにひそんでいます。



自然共生社会に向けて

自然となかよく暮らすために

里山の自然と人の暮らし

里山とは、人の住む場所の近く^{むす}にあって人々の生活と結びついた山や森のことを呼び、身近な水田や畑もふくみます。里山は、人間にとっても大切であると同時に、多くの生きものの住み家としても大事な場所です。水田にはオタマジャクシなどが住み、稲穂^{いなほ}についた虫を食べに野鳥がやって来ます。その野鳥たちは、害虫^{てんねん}などを食べてくれるため、天然の農薬^{のうやく}の役割^{やくわり}もしています。

トヨタカシギ

トラクターを追いかけるアマサギ

二酸化炭素吸収

豊かな野鳥などの生活の場

オキナワアオガエル

タイサギ

タイモの畑

米をつる

バードウォッチングを楽しむ



クイちゃん豆知識

沖縄は渡り鳥の楽園

ラムサール登録湿地^{とうろくしつち}の漫湖^{まんこ}や具志干潟^{くしひがた}、豊見城市^{あわせ}の三角池^{さんかく}、泡瀬干潟^{わた}などは、渡り鳥の重要なえさ場。秋になるとシベリアなど寒い国から渡ってきた鳥たちで干潟がにぎやかになります。実は、国内で見られる野鳥の種類数の約75%がここ沖縄で観察^{かんさつ}できます。毎年冬になると、世界的にも数が少ないクロツラヘラサギも渡ってきます。

私たちが自然とうまく共生していくために必要なこと。それは第1に生きものと人の住む場所をうまく分けていくこと（やんばるの森、西表の大自然など）。そして第2に人と自然がかかわる里山や里海の自然を守っていくこと。第3に町の緑をふやし、失った自然を回復させていくことなどがあげられます。ここでは、人と里山、里海との関係を見てみましょう。

里海の自然と人の暮らし

里海とは、古くから漁業や、人と海との文化をはぐくみ、私たちの暮らしをささえてきた海です。里海は漁業の場として食卓に多くの恵みをあたえてくれたり、つりや潮干狩りを楽しむ場所として使われてきました。また、遠く外国から渡ってくる鳥たちの子育てやえさ場としても大切な場所です。里海を守っていくためには、海につながる森や川をうまく管理することが重要です。



エコクイズ

沖縄の里山と里海のクイズ（正解を○で囲みましょう）

1. 沖縄で見られる野鳥の種類数は日本全国の（ア. 約15% イ. 約75%）である。
2. 里山は多くの生きものの（ア. 住み家 イ. 住みづらい場所）である。
3. 里海を守るためには（ア. 森や川 イ. 街）をうまく管理することがたいせつ。